厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者　福井次矢・聖路加病院・院長）

研究要旨
がん医療を取り巻く環境の中で、学術団体の果たす役割は大きく、特に学術研究による新規診療の提案、基礎研究、臨床研究に加えて医師をはじめとする医療者に対する教育、がん患者さんに向けた標準的な提供医療内容の提示、その他の社会貢献的役割へのかかわりなどがある。その一環として、「がん診療ガイドラインの作成・更新・普及・検証・評価」、及びそのための研究的事業としての「臓器がん登録による臨床研究の推進」に関しその一役を当該研究班は担ってきた。総論的課題としての、１.「がん医療における学会の社会的役割」、２.「推奨医療の実地医療での引用度の評価」、３.「「がん登録」データを用いた臨床研究」、４.「国際的貢献を果たすための新たな研究には何が必要か」、の４課題についての考え方の一端を概説した。

A．研究目的
学術団体が貢献してきた「がん診療ガイドラインの作成」と「現状で実施されている臓器がん登録の状況」に関わる総論的課題について、研究代表者から提案されてきた項目について現状と将来を見つめた観点から俯瞰的な視点で、あり方等の探索・考察を各学術団体から推薦された研究分担者を主たる対象に考えて、要約するようにとの要望に対し研究を行った。

B．研究方法
各種関連資料からの情報提供、例えば行政から出されている近未来、あるいは近々において公表されている関連情報、自身の推し進めてきた医療展開の理念と実務経験内容の要約紹介を行い研究分担者・研究協力者からの意見・要望・質問に答えそれぞれの研究に貢献する、及び研究代表者がまとめてきた課題事項に対しての相互の解説・討論を行ったうえで研究目的内容に関するまとめを行い研究班全体へ還元する、という手順によった。

C．研究結果・D．考察
以下のように上記の研究方法に述べた趣旨に添って、項目別に研究内容の要約を紹介する。

1. がん医療における学会の社会的役割

臨床系学会の役割として一般には、良質な医療の教育・普及、基盤となる新規研究の紹介・評価・推進と臨床への応用、担当領域がんの疫学的業務の遂行、社会的貢献（市民への情報提供・教育）などが挙げられる。各項目への力点の置き方には学会間に差が見られるのは当然だが、今後、望ましい姿勢とはどういう事業によって関わって頂くか。更なる適切な社会的貢献にはどのような役割を果たすことをどのようにして望んでいくべきか。

2. 推奨医療の実地医療での引用度の評価

「推奨医療内容の実施率」と治療成績の比較を検討した研究は少ない。診療ガイドラインの普及が進むにつれ、一部で引用率高低の背景に関する研究が行われている。その背景となる因子の探求とその妥当性、あるいは課題点を明らかにすることで、社会的課題、生物医学的課題を克服が可能となりうるが、今後どのような評価研究が望まれるか。

3. 「がん登録」データを用いた臨床研究

2016年1月から「がん登録」が実施されている。そのデータの利活用による臨床研究に期待が寄せられている。国民は、がん医療に高度成績・高安全性・確実性・平等性を求めている。そこで、未来を見つめての学会が主導する研究テーマへ要求されるものは何か、また正しい研究体制の考え方を伺う。

4. 国際的貢献を果たすための新たな研究には何が今重要か。

日本のがん医療に関わる臨床疫学的研究には、医療の質の担保、提供医療の平等性を背景としているため国際的には注目されているが、高いエビデンスを数多く国内外に示し得ていない。高レベル医療の平等な提供、即ち国民皆保険制度を取っている本邦から世界に発信できるメガデータは研究手法の工夫により国民にも益となる。研究体制への考え方に提言を頂きたい。

E．結論
上記四種の課題については、学術団体には、今後も流動的な動向の可能性を考慮しつつその置かれた立場を十分に生かそうとの認識を抱いて頂いて活躍・貢献すること

	が望まれ、社会からもがん研究、がん医療の展開の上で期待されていると考えられる。現状でもそうであるが、常に社会的視点と行政及び患者さんの視点を持っての前進により、有益な学術的な情報提供、医療提供を継続することが重要である。そのため学術団体横断的な関連情報交換の在り方も今後の研究課題と言える。	